

キタサンショウウオの幼生 は共食いをするのか？

照井 滋晴

北海道には、北海道の全域に生息しているエゾサンショウウオ *Hynobius retardatus* と日本及びその周辺域では釧路湿原と北方領土の国後島にのみ生息が確認されているキタサンショウウオ *Salamandrella keyserlingii* の2種のサンショウウオが生息している。エゾサンショウウオの幼生は、同じ水槽内で高密度に飼育すると頻繁に共食いをすることが一般的に知られている。しかし、キタサンショウウオの共食いについての知見や研究はほとんど存在しない。筆者が確認した中で、キタサンショウウオ幼生の共食いについて記載が確認できた文献は、佐藤（1943）のみであり、その中には「限られた静水のこととて共喰も頻繁に行はれる。」と記載してある。しかし、筆者がこれまでに実施してきた野外調査においてキタサンショウウオの共食いの様子や、共食いをしたと考えられる形状（共食い型）の幼生は観察したことはない。そこで、キタサンショウウオの幼生が共食いをするのか否かを確かめるために、北海道釧路郡釧路町に位置するキタサンショウウオ生息地において、卵囊を採集し飼育実験を実施することとした。卵囊の採集は、必要となる許認可等を行った上で実施した。

実験は、300ml ビーカーに採集した卵囊から孵化したキタサンショウウオ幼生 10 個体を入れ、餌を与えず 14 日間（2013 年 6 月 8～22 日）飼育し、24 時間毎に共食いの有無を観察するという方法で行った（図 1）。キタサンショウウオ幼生 10 個体を入れたビーカーは 10 サンプル用意した。また、比較用のサンプルとしてエゾサンショウウオ幼生 10 個体を入れたサンプルを 5



図 1. 実験に用いたキタサンショウウオ幼生
(1 メモリ 5mm)

サンプル用意し、同様の実験を実施した。実験に用いた個体は、原則として孵化後 1 週間程度の成長段階が揃った幼生を使用した。また、各サンプル内の個体は、2 双の別の卵囊（血縁関係のない卵囊）から孵化した幼生を 5 個体ずつの計 10 個体とした。

実験の結果、キタサンショウウオ幼生のサンプルでは、全てのサンプルで共食いは確認できなかった。しかし、エゾサンショウウオ幼生のサンプルでは、全てのサンプルで共食いが発生した（8/10, 3/10, 7/10, 9/10, 8/10）。このように、ほぼ同一の条件下での実験で、種間に実験結果の差が確認された。このことから、キタサンショウウオ幼生においては、エゾサンショウウオ幼生と異なり共食いは発生しない可能性が考えられた。しかし、本実験は、簡易的な手法での試みであり、論文などのデータになるような信用あるデータをとるのであれば、クリアしなければならない課題が数多くある。今後、この実験結果を見て興味を持つ方がいたならば、ぜひ本格的な実験に取り組んで欲しい。

引用文献

佐藤井岐雄. 1943. 北山椒魚属. 271-287. 日本産有尾類総説. 日本出版社.

(085-0816 北海道釧路市貝塚 1 丁目 10-15 NPO 法人環境把握推進ネットワーク -PEG)